

2025(令和 7)年度
大阪府内地域連携プラットフォーム
事業報告書
(2025 年 4 月～9 月)

2025（令和 7）年 9 月

※「会員大学」は大学コンソーシアム大阪会員大学を指す。

課題 1 大学と高校の有機的な接続・連携の強化

月	会議	行事等
4		オープンキャンパス情報 HP 掲載（常時）
5		大阪の大学「学び」WEB フェア HP 掲載（常時）
6	第 1 回推進委（13 日）	・ 共通大学案内ブックレットの作成・配布（7 万 2 千部） ・ 高校生の進路検討に関する調査実施（9 月 19 日まで）
7	第 1 回部会（9 日）	
8		高校生応援プロジェクト HP 掲載（常時）
10		高大連携フォーラム（6 日）

取組 1 高大連携フォーラム https://www.consortium-osaka.gr.jp/staff/koudai_forum

目標	・ 高大双方が高大接続の大きな環境変化に関する情報を共有している。 ・ 高大接続の諸問題を高校と大学が対等な立場で継続的に検討している。
数値目標	・ 活用割合：会員大学数の 60%以上の参加大学数／各年 ・ 参加者比率：大学と高校からの参加者数が同程度／計画期間内
活動指標	・ 開催回数：1 回以上／各年
実績	・ 1 回開催（10 月 6 日開催予定）

- ・「高大連携フォーラム」は、2005 年から開催しており、大阪府内の高校と大学が各自で取り組む教育実践の内容を共有し、より効果的な連携方法の模索と教育改革を促進するため場として位置付けている。
- ・今年度は、「探究の設計」に焦点をあてた学びの核心に着目し、実践報告を通じた高校・大学双方現場の具体的な工夫や課題を共有しながら活発な議論を行う予定である。

<開催概要>

テーマ：探究を「学びの核」とするために ―探究学習の課題共有から始める高大連携の実践と展望―
 日時：2025 年 10 月 6 日（月）15:00～17:00
 会場：関西大学 梅田キャンパス 8 階ホール ※オンライン併用
 基調講演：探究の核となる「問う力」の育成と評価の試み
 池田 文人 氏（高大連携部会推進委員会 委員、
 大阪公立大学 国際基幹教育機構 教授・学長補佐、アドミッションセンター長）
 事例発表：①土曜日をデザインしよう！～大阪女学院中高の取り組み
 山崎 哲嗣 氏（大阪女学院高等学校 校長・副理事長）
 ②リサーチクエストの生み出し方～生徒、教員、+αの対話から～
 西澤 淳夫 氏（大阪府立千里高等学校 教諭）
 ファシリテーター：峯 明秀氏（高大連携部会推進委員会 副委員長／大阪教育大学 理事・副学長）

高大連携フォーラムチラシ



取組2 会員大学情報の発信

目標	・ 高校生のニーズが高い情報を厳選して会員大学から収集している。 ・ 高校生に届きやすい方法で会員大学情報を発信している。
数値目標	・ 活用割合：会員大学数の 80%以上の大学数／各年 ・ ホームページの該当ページの閲覧数：倍増／計画期間内
活動指標	・ 実施回数：1～2 回／各年
実績	・ 4 回実施（共通大学案内ブックレット、オープンキャンパス情報、学び WEB フェア、高校生応援プロジェクト） ・ 会員大学による HP の活用割合：100.0%（42 校/会員 42 校） ・ 高校生カテゴリページ閲覧数：4,620 回（2025 年 4 月 1 日～2025 年 8 月 31 日までの集計）

【オープンキャンパス情報の発信】https://www.consortium-osaka.gr.jp/osaka_univ

大学コンソーシアム大阪のホームページにて会員大学のオープンキャンパス情報を一元的に掲載し、高校生が年間を通じて各大学の最新情報に容易にアクセスできる仕組みを整備している。

スマートフォン閲覧を意識した画面構成や検索性の改善を図り、多くの高校生・保護者に利用してもらえるよう工夫を行っている。

【大阪の大学「学び」WEB フェア】https://www.consortium-osaka.gr.jp/osaka_univ/webfair

大学コンソーシアム大阪のホームページにて会員大学合同説明会を実施している。この取組は、高校生や保護者が時間や場所を問わず、複数大学の情報に一度にアクセスできる仕組みを提供するものであり、会員 42 大学の情報を網羅している。

同フェアでは、各大学の特色・教育内容や大学紹介動画のコンテンツを掲載するとともに、各大学のページにアクセスするリンクを設置している。進学検討期の高校 2 年生や保護者、進路指導に携わる高校教員にとっても有益な情報源となるよう整備を行っている。

【高校生応援プロジェクト】

https://www.consortium-osaka.gr.jp/osaka_univ/project

大学コンソーシアム大阪のホームページに、高校生を対象とした「大学の学び」に関する動画コンテンツを集約したページを設置している。ここでは、会員大学が提供する模擬授業を公開しており、高校生が自宅にいながら大学の学びや雰囲気に触れることができる仕組みを整えている。

2025 年度は、25 大学の特色ある学びのコンテンツを公開し、地域や時間の制約を超えて大学の魅力を伝える有効な手段となっている。

【高校生の進路検討に関するアンケートの実施】

<https://www.consortium-osaka.gr.jp/platform/plan>

2025 年度は、高校生の進路検討時に必要とする情報や、その優先順位を把握することを目的に「高校生の進路検討に関するアンケート調査」を実施した。本調査は、コロナ禍前にも実施しており、今回はコロナ前後における意識や行動の変化を明らかにするとともに、最新のニーズを把握することを重視したものである。得られた結果は、今後の高大連携施策や進路指導支援の改善に資する基礎資料として活用していく。

【共通大学案内ブックレットの作成・配布】

<https://www.consortium-osaka.gr.jp/images/web/osaka/webfair/booklet2025.pdf?1751263529>

会員大学の魅力を広く発信するため、毎年度「共通大学案内ブックレット」を作成している。ブックレットには、学生による自大学の紹介や学生座談会記を掲載し、受験を具体的に検討し始める高校 2 年生を主な対象として配布している。

大阪府教育庁の協力や会員大学の共同による高校訪問を通じて約 7 万 2 千部を配布したほか、オンラインでのデジタル版公開にも取り組み、より多くの高校生や教員にとって利用しやすい環境を整えている。



「大阪の大学へ行こう」
共通大学案内ブックレット

課題2 単位互換プログラムのさらなる充実

月	会議	行事等
4		前期科目開講
5	第1回推進委・単互実務委合同会議(22日)	
7	第1回部会(10日)	
8		追加募集科目 出願開始(21日～) 集中科目開講
9		後期科目開講

取組1 単位互換事業 <https://www.consortium-osaka.gr.jp/tg>

目標	・センター科目と各大学が担当するオンキャンパス科目の役割やねらいが明確になっている。 ・各大学の強み、ネットワークを活かして「大阪の特徴・魅力」を総合的に学べる機会を提供している。
数値目標	・学生送り出し校数：包括協定校の60%以上の大学数/各年
活動指標	・実施回数：1回/各年
実績	・1回実施 ・学生送り出し校数：包括協定校の63.4%（26校/協定校41校※） ※協定校数について 大阪公立大学、大阪府立大学、大阪市立大学は、それぞれを1校として計上。

<大学コンソーシアム大阪 単位互換事業>

【センター科目】

- ・開講科目数は、入れ替わりがありながらも計17科目となり、前年度実績（17科目）と同数であった。
- ・出願者数は、9月募集時点の速報値では791名と、2024年度最終出願者数（710名）と比較し、増加傾向となった。
- ・開講科目の内容面では、大阪・関西万博やSDGsをテーマとした「社会ソリューション講義～いのち輝く未来社会を描く」（大阪大学開設）の継続に加え、外国人留学生を対象とした「外国人留学生のためのキャリアデザイン」（大阪女学院大学、大阪国際大学、大阪商業大学開設）が新規に加わるなど、学生の多様な関心に対応した構成となっている。

【オンキャンパス科目】

- ・開講科目数は466科目と、2024年度（441科目）から25科目の増加となった。
- ・出願者数は、9月募集時点の速報値では281名で、2024年度最終出願者数（388名）と比較すると減少傾向となった。

<出願実績>

※出願者数は在籍大学承認不可および辞退者を除いた数を示す。

科目群	項目	2024年度 (最終)	2025年度 (速報)	増減	前年比
センター	科目数	17	17	0	100.0%
	出願校数	24	23	-1	95.8%
	出願者数	710	791	81	111.4%
オン キャンパス	科目数	441	466	25	105.7%
	出願校数	21	20	-1	95.2%
	出願者数	388	281	-107	72.4%

<広域単位互換事業>

- ・単位互換制度のさらなる充実を目指し、広域単位互換制度の趣旨に賛同する大学コンソーシアムによる「広域単位互換ネットワーク」を2024年7月に設置した。(大阪、函館、静岡、広島の4団体にて開始。)
- ・2025年度からは新たに大学コンソーシアム京都および大学コンソーシアム石川が参加し、計6団体による連携体制となった。これにより、各地域の特色を活かした科目が提供され、一定の出願者数を確保している。
- ・大学コンソーシアム大阪においては、夏募集科目として3科目を提供している。

<出願実績>

NO.	科目名	開設校	募集期	出願者数
1	科学技術コミュニケーション入門	公立はこだて未来大学	春	0
2	平和と人権 A(ヒロシマと国際平和)	広島市立大学	春	2
3	地域教養ゼミナール B(英語で伝える広島)	県立広島大学	春	2
4	特殊講義(教養E) I 清水寺関連講座	立命館大学	春	1
5	特殊講義(教養E) I 京都文化遺産と防災	立命館大学	春	1
6	特殊講義(総合) 大学スポーツ活性化戦略	立命館大学	春	0
7	修験学実践講座(峯入修行体験)	種智院大学	春	1
8	スタディツアー(東インド オディシャ地方の密教美術と宗教文化)	種智院大学	春、夏	集計中
9	関空・泉州・南大阪地域学	羽衣国際大学	夏	集計中
10	命の尊厳を涵養する食農フィールド科学演習	広島大学	夏	集計中
11	農林業	静岡大学	夏	集計中
12	金融リテラシーを高める	近畿大学	夏	集計中
13	社会ソリューション講義～いのち輝く未来社会を描く	大阪大学	夏	集計中
14	瀬戸内海の養殖水産物を学ぶ総合演習	広島大学	夏	集計中



「関空・泉州・南大阪地域学」全体写真



最終プレゼン会の様子

課題3 キャリア教育プログラムの充実と支援体制の強化

月	会議	行事等
5	第1回インターンシップ推進委・ キャリア支援推進委合同会議（9日）	就業体験型 学生向け説明会（7日） 就業体験型 学生出願期間（7日～23日）
6		就業体験型 面接・選考（1日） 就業体験型 事前研修（29日）
7		第1回大学等教職員向けセミナー（18日）
8	キャリア支援部会（6日） 第2回インターンシップ推進委・ キャリア支援推進委合同会議（27日）	就業体験型 実習期間（～9月中旬まで）
9		第2回大学等教職員向けセミナー（8日） 就業体験型 事後研修（28日） 第3回大学等教職員向けセミナー（29日） ※以降、順次開催予定

取組1 就業体験型プログラム

目標	・参加した学生が社会人としての心構えや「働くこと」についての理解を深め、より高い意識で大学での知識・能力・技術の習得に励もうと考えている。 ・留学生、障がい学生、社会人学生など多様な学生と社会をつなぐ機会となっている。
数値目標	・学生送り出し大学数：会員大学数の60%以上の参加大学数／各年 ・参加学生数：150人以上／各年 ・受入企業数：100社以上／各年
活動指標	・実施回数：1回／各年
実績	・1回実施 ・学生（実習者）送り出し大学数：31.0%（13校/会員42校）

<実績>※2025年8月31日時点

区分	指標	2024年度 （最終）	2025年度	増減	前年比
大学数	出願校数	17	15	-2	88.2%
	マッチング校数	16	13	-3	81.3%
	送出校数	16	13	-3	81.3%
企業数	エントリー件数	103	104	1	101.0%
	マッチング件数	65	74	9	113.8%
	受入件数	62	72	10	116.1%
学生数	エントリー数	167	179	12	107.2%
	マッチング数	148	152	4	102.7%
	実習者数	142	148	6	104.2%

- ・本プログラムは、大学生に対して企業等での実習機会を提供することを目的として実施し、2025年度も以下のとおり、大学・企業双方の参画が得られ、順調に推移している。
 - ・送出校数：前年16校から13校へ減少しており、新規参画の働きかけが課題である。
 - ・受入企業数：前年62社から72社へと増加し、実習受入の裾野が拡大できた。
 - ・実習者数：前年142名から148名へ微増し、エントリー数・マッチング数も総じて上回った。
- ・全体として、学生・企業双方の参加が拡充し、就業体験の機会提供が一層充実できている。

取組2 プロジェクト型プログラム

目標	・参加した学生が現場での経験により、より高い意識で大学での知識・能力・技術の習得に励もうと考えている。 ・学生による提案内容が連携先企業をはじめ、社会的に評価・関心を高めている。
数値目標	・学生送り出し大学数：会員大学数の25%以上の参加大学数／各年 ・参加学生数：30人以上／各年
活動指標	・プログラム本数：2件以上／各年
実績	・新規実施なし

- ・従来実施してきたプロジェクト型プログラムについては、国の三省合意改正を受けて、プログラムの在り方の見直しを進めてきた。近年、参加学生数の減少傾向や実施体制の不十分さといった課題が続いていることから、2025年度より事業の方向性を改め、低学年向けプログラムを事業の主軸とすることとした。プロジェクト型については、現時点で新規のプログラム化は行わず、低学年向けプログラムの中で派生的にテーマ化できる案件が生じた際に限り、プログラムとして展開する方針である。

取組3 低学年向けプログラム（旧 就活クエスト in OSAKA）

目標	・参集型では難しかった遠隔地や特殊な現場など、これまで知る機会がなかった仕事について、学生が具体的なイメージを持つことができる。 ・学生が、プログラムを通じて企業活動の意義とそこで働く人の役割の一端を理解している。
数値目標	・学生送り出し大学数：会員大学数の25%以上の参加大学数／各年 ・参加学生数：60人以上／各年
活動指標	・実施回数：3回以上／各年
実績	・下半期に実施予定

- ・本取組は、早期から実社会に触れることを通じて学修の深化や主体的な職業選択を促し、職業意識の涵養を目的とするものである。従来は、低年次学生を主対象としたワークショップ形式により、産業構造や中小企業の魅力に触れる機会を提供してきた。
- ・2025年度は、新たに「ガクチカ（学生時代に力を入れたこと）」の形成支援を目的としたプログラムを企画し、下半期の実施に向けて検討・調整を進めている。

取組4 キャリア支援事業

目標	・時宜に応じたキャリア支援の課題に会員大学が連携して対応している。（就職に困難性のある学生に対する支援、学生の多様性に対する支援など） ・就職支援のための関連団体との連携が拡大し、充実した支援を実施している。
数値目標	・参加大学数：会員大学数の25%以上の参加大学数／各年
活動指標	・開催回数：1回以上／各年
実績	・「大学等教職員向けセミナー」（大阪府との共催） 2回開催（全5回開催予定） （第1回：7月18日、第2回：9月8日、第3回：9月29日、 第4回・第5回：調整中）

- ・本事業では、発達障がい傾向を有する（いわゆる発達障がいグレー）の学生をターゲットとした、就職に困難性のある学生の支援強化を目的に取り組んでおり、関連団体との協働を進めている。

【大学等教職員向けセミナー】

- ・大学コンソーシアム大阪・大阪府との共催による「大学等教職員向けセミナー」をシリーズで開催し、発達障がいグレー学生の就労支援について理解を深める機会を提供している。今年度は5回にわたり実施予定である。
- ・発達障がいグレー学生の就労支援を検討テーマとした協議体を、大阪府内地域連携プラットフォーム（大阪府・大阪市・大阪商工会議所・大学コンソーシアム大阪による大阪府域の地域連携プラットフォーム）のもとに設け、「分科会2」として今年度より検討を順次進めていくこととなった。当面は、大阪府が推進する「大阪の未来社会を支える若者・企業応援事業」を基盤とし、意見交換や情報共有を進めていく。

<開催スケジュール> ※今年度は全5回開催予定

回	開催日	テーマ	参加者数
第1回	7月18日	「26卒障がい学生」の就活の最新動向と求人データ速報 ～300件以上の新卒障がい学生向けの求人分析から～	36人 (うち会員14 大学18人)
第2回	9月8日	大学等教職員と企業の交流会 未来を創る採用戦略／売り手市場で企業が “内々定を出さない”学生の特徴と教育現場に求める スキルセット	集計中
第3回	9月29日	就職困難性を抱える学生が社会に踏み出すために支援者が できること～学生や若者を支える現場から～	集計中



就業体験型プログラム 実習の様子①



就業体験型プログラム 実習の様子②

課題4 国際交流の活性化

月	会議	行事
4		外国人留学生向け特設ページの公開（常設）
5	第1回推進委（13日）	
6		学生英語プレゼンテーションコンテスト 発表者募集開始（中旬～）
7	第1回部会（28日）	
8		学生英語プレゼンテーションコンテスト 運営メンバー募集開始（下旬～）
9	第2回推進委（29日）	

取組1 他国・他地域との交流事業

目標	・明確な目的をもって、国際交流事業を実施している。 ・さまざまな交流プログラムを検討・実施している。
数値目標	・交流事業数：延べ5事業／計画期間
活動指標	・交流事業開催回数：1回以上／各年（再開以降）
実績	・外国人留学生向け特設ページ設置（常設）

- ・コロナ禍以降、台湾高等教育国際合作基金会との交流は停滞していたが、2025年3月より、会員大学が共同で外国人留学生を対象とする新たな取組として、大学コンソーシアム大阪のホームページに「外国人留学生向け特設ページ」を開設した。
- ・現時点で18大学から情報提供を受け、同ページに掲載している。掲載内容は、会員大学紹介をはじめ、留学生のキャンパスライフ紹介、学術分野マップ、留学生支援に関する情報で構成しており、外国人留学生が大阪での学びや生活を具体的にイメージできるよう工夫している。

【外国人留学生向け特設ページ】 <https://www.consortium-osaka.gr.jp/international>

- ・対象：大学進学を目指す外国人留学生
- ・掲載大学数：18大学
- ・対応言語：日本語・英語
- ・主な内容：
 - ・会員大学紹介（各大学提供情報を掲載）
 - ・大阪での留学生活紹介（インタビュー記事：インドネシア、ネパール、モンゴル等からの留学生8名）
 - ・学べる分野（学術マップ簡易版）
 - ・留学生支援に関する情報（生活・学びに役立つWEBページ紹介）

目標	・日本の現状と課題を認識し、グローバルな社会課題の解決方策を考えるきっかけとなっている。 ・多文化共生・異文化理解、ソーシャル・インクルージョン（社会的包摂）という価値観を育む機会となっている。
数値目標	・講座受講者数：延べ 300 人以上／計画期間内
活動指標	・講座開催回数：2 回以上／各年 ・国際交流イベント開催回数：1 回以上／各年
実績	・グローバル人材育成講座：下半期に開催予定 ・国際交流イベント：下半期に開催予定（大阪まちあるきツアー）

【グローバル人材育成講座】

- ・グローバルに活躍できる人材の育成を目的として、毎年その時々社会的課題や関心に即したテーマを設定し、講座を実施している。近年は学生の参加が伸び悩んでいることから、事業の在り方を見直し、今年度は「グローバルキャリア」の視点に基づく新たな講座を下半期に企画している。

【国際交流イベント「大阪まちあるきツアー」】

- ・「大阪のまち」を題材としたまちあるきを通じ、国内学生と留学生がそれぞれの大阪観や日本観を共有することで、異文化理解を促進し、新たな気付きや価値観の獲得につなげることを目的としている。今年度も同ツアーを実施予定であり、10 月から企画・運営を担う学生メンバーを募集し、活動を開始する予定である。

取組3 学生英語プレゼンテーションコンテスト

https://www.consortium-osaka.gr.jp/student/en_presentation

目標	・学生が発表に至るまでにグループワークを重ね、プレゼンテーションスキルを学ぶ機会となっている。 ・国際共通語としての「英語」を用いて、国際的な共通課題の解決策を斬新な発想で考え、意見交換する機会となっている。
数値目標	・会員大学数の 50%以上の参加（発表大学、運営学生、当日の来場者等）／各年 ※2024 年度に目標を改定 ・参加者数：英語圏以外の留学生の参加増／計画期間内
活動指標	・開催回数：1 回／各年
実績	・1 回（11 月 30 日）開催予定

<開催概要>

日 時	2025年11月30日（日）10：00～17：00
会 場	関西大学 梅田キャンパス 8階 大ホール
発表テーマ	「私たちが創る、これからの“大阪らしさ”～変わる都市、変わらない魅力～」 伝統・文化・人情・笑いなど、古き良き“大阪らしさ”がある一方で、グローバル化・人口減少・まちの再開発などによって、大阪は大きく変わりつつあります。 学生の視点で、これからの時代にふさわしい「持続可能性」と「地域文化の継承」を両立する新しい“大阪らしさ”を提案してください。

- ・高い国際意識やコミュニケーションスキルを有する学生の育成を目的に、毎年開催し、発表テーマを大阪の地域課題や SDGs と関連づけることで、学生に身近かつ国際的な課題意識を喚起している。
- ・今年度は「大阪らしさ」を切り口に、地域文化の継承と都市の持続可能な発展を両立する提案を求めた。
- ・出場要件として、日本人学生を含む混成チームとし、英語を第一言語とする学生の参加を制限することで、多様な学生が英語を共通言語に協働する環境を整えている。
- ・また、広報や司会進行などを担う企画・運営学生チームを編成し、約 3 か月にわたり、準備から実施まで主体的に関わる仕組みを設け、リーダーシップやマネジメント能力の育成にもつなげている。

課題5 地域連携の促進による大阪・関西の活性化

月	会議	行事等
4		地域連携学生フォーラム 学生運営メンバー募集開始（中旬～）
5		地域連携学生フォーラム 学生運営メンバー活動開始（下旬～）
6	第1回推進委員会（10日）	同フォーラム 発表者募集開始（下旬）
8	第1回部会（4日）	同フォーラム 発表者募集締切（22日）※9月4日まで締切延長
9		同フォーラム 観覧者募集開始（中旬）

取組1 地域連携 学生フォーラム in Osaka

https://www.consortium-osaka.gr.jp/student/gakusei_forum

目標	・大学と行政・事業者等のコラボレーションが自発的に起こっている。 ・学生の提案事項や連携のノウハウが蓄積され、それらを会員大学や自治体が共有している。 ・大阪・関西万博に向けて、学生がつながり、関わる場となっている。
数値目標	・会員大学数の50%以上の参加（発表大学、運営学生、当日の来場者等）／計画期間内 ※2023年度に目標改定 ・参加する行政・事業所数：15団体以上／計画期間内
活動指標	・開催回数：1回／各年
実績	・1回（10月12日）開催予定

- ・本フォーラムは、会員大学の学生が自ら取り組む地域活動（ゼミでの研究成果や地域ボランティア、社会課題解決型プロジェクト等）を発表し、他大学の学生や行政・事業者との交流を深めることを目的としている。これにより、学生にとっては自身の活動を振り返り発信する機会となるとともに、大学や地域にとっては先進的な取組事例を共有する場となっている。
- ・本フォーラムの運営は、6大学11名の学生が主体的に担っている。広報活動から当日の運営までを役割分担して実施し、約5か月間にわたり継続的に会議・準備を行うプロセスを経験することで、企画力・リーダーシップ・チームマネジメント能力を実践的に養っている。
- ・発表形式は、学生運営メンバーの意向により、昨年度に引き続きポスターセッションを採用した。学生が来場者と直接対話しながら説明を行うことで、双方向的な議論や質疑を通じた学び合いの促進を期待している。これにより、発表学生にとっては自身の活動を多角的に捉え直す契機となり、来場者にとっても新たな気づきを得る場となっている。

<開催概要>

開催日時：2025年10月12日（日）13:00～17:00（予定）
 会場：グランフロント大阪 北館タワーC 8階
 ナレッジキャピタルカンファレンスルーム タワーC Room C01+C02
 テーマ：ふらっと寄ってみ、まちトーク！学生の”地域愛”シェアしませんか？
 発表事業数：4大学4事業
 運営学生数：6大学11人

取組2 地域連携交流サロン

https://www.consortium-osaka.gr.jp/staff/info_meeting

目標	・大学と行政・事業者等のコラボレーションが自発的に生まれている。
数値目標	・参加大学数：会員大学数の50%以上の参加大学数／計画期間内 ・参加する行政・事業所数：10団体以上／計画期間内
活動指標	・開催回数：1回以上／各年
実績	・下半期に開催予定

- ・地域連携交流サロンは、大学・行政・事業者が一堂に会し、実践事例や課題を共有することで、新たな連携の契機を創出することを目的としている。
- ・今年度は、各大学で取り組みが進む一方で課題も多いPBL（課題解決型学習）型授業をテーマに設定し、教育現場における成果と課題を共有するサロンを下半期に開催予定である。

- ・学生ボランティアチーム ACT は、学生交流の促進を目的に、自主的にイベント等を企画・運営する活動を続けている。
- ・2025 年度は、6 月に交流会とたこ焼き作り体験を組み合わせた新歓イベントを開催し、参加学生から好評を得た。
- ・一方で、卒業などの理由に伴い、参画学生数が減少傾向にある。ACT はコロナ禍に発足し、その間は活動の意義や必要性が強く認識されていたが、コロナ後は学生にとって多様な活動機会が広がったこともあり、メンバー数減少の一因となっている。そのため、今後の活動の在り方や方向性を模索している状況である。

※現在の参加学生数：7 人

<大学別>

追手門学院大学 2 人、大阪工業大学 2 人、摂南大学 2 人、関西大学 1 人

<学年別>

2 年生 2 人、3 年生 4 人、大学院 M1 1 人



ACT 新歓イベントの様子①



ACT 新歓イベントの様子②

課題6 研修による大学教職員の資質向上とネットワーク強化

月	会議	行事
4		インストラクショナルデザイン（ID）研修 （オンデマンド研修・常設）
5	第1回推進委（19日）	
6		初任者SD研修（第1回）（13日）
7	第1回部会（22日）	
8	第2回推進委（25日）	サロン（第1回）（20日）
9		初任者SD研修（第2回）（16日）

取組1 各種研修

目標	・ 会員大学のニーズに応じた研修を実施している。 ・ 研修講師を担える人材の育成が図られている。
数値目標	・ 教職員送り出し大学数：会員大学数の25%以上の参加大学数／各年
活動指標	・ 実施回数：2回以上／各年
実績	・ 初任者SD研修：3回実施予定 （第1回：6月13日、第2回：9月16日、第3回：下半期） ・ インストラクショナルデザイン（ID）研修 * オンデマンド研修・常設 ・ 管理職者SD研修：1回開催予定（下半期） ・ 中堅層向けSD研修：1回開催予定（下半期）

【初任者SD研修】<https://www.consortium-osaka.gr.jp/staff/sd>

- ・ 初任者SD研修は、大学職員として必要な基礎的知識やスキルを学ぶとともに、他大学の職員との交流を通じて情報交換やネットワーク形成を促進することを目的に、対面で全3回実施予定である。
- ・ 初回は19大学44人（うち会員外3大学5人）が参加し、多様な大学の職員同士が業務の視点を共有する機会となった。各回は「基本姿勢」「業務遂行力」「学び続ける姿勢」と段階的にテーマを設定し、現職の推進委員が講師を務め、実体験に基づく実践的な学びを提供している。
- ・ 本研修を通じて、受講者が相互に気づきを共有し、「学び続ける大学職員」としての姿勢を早期に養うことを目指す。

<開催スケジュール>

回	テーマ	講師（いずれも推進委員）	受講者数
1	大学を知り、輝く大学職員になろう！	佐藤 浩輔氏（大阪体育大学 庶務部 学長室担当 チーフ） 加藤 敦也氏（大阪産業大学 人事部 人事課 主任）	19大学44人 （うち会員外3大学5人）
2	ケースから学ぶ大学職員の 「業務の進め方」	佐藤 浩輔氏（大阪体育大学 庶務部 学長室担当 チーフ） 茅野 早希氏（追手門学院大学 総務部人事課 主任）	11大学24人 （うち会員外2大学2人）
3	総括（学び続けることの大切さ、他）	調整中	-

【インストラクショナルデザイン（ID）研修】

▶研修概要（大学コンソーシアム大阪ホームページ）：<https://www.consortium-osaka.gr.jp/staff/id>

▶研修コンテンツ：<https://donow2016.com/id/2022/>

- ・ インストラクショナルデザイン（ID）研修は、大学職員が「教え方のセオリー」を学び、自大学でのSD研修企画や業務に活かすことを目的とするオンデマンド講座であり、宮原 秀明氏（大阪学院大学 大学事務長／大学コンソーシアム大阪 研修部会 推進委員）が講師を務めている。2022年11月より大学コンソーシアム大阪のホームページで提供を開始し、現在も継続して配信している。
- ・ 2025年度において、アクセス数は着実に伸びており、会員大学職員が「いつでも・どこでも学べる」環境を提供する仕組みとして定着しつつある。

※研修概要ページへのアクセス数（アクティブユーザー数）97件 ※2025年4月1日～8月31日

【管理職者 SD 研修】

- ・管理職者 SD 研修は、2022・2023 年度に「大学コンソーシアム大阪 中期計画推進に係る提案型研究事業」の一環として取り組まれ、3 大学（大阪女学院大学・大阪学院大学・大阪電気通信大学）の連携により実施してきた。2024 年度からは研修部会事業の一つとして展開している。
- ・2025 年度は、この枠組みをさらに発展させ、研修部会推進委員会を中心に企画を行うとともに、講師としても参画する体制へと拡充し、多様な視点から研修内容の充実を図る予定である。
- ・これにより、管理職層に求められる役割や課題を多角的に学ぶ機会を提供し、会員大学間における共通認識の醸成や人的ネットワークの深化につなげていく。

【中堅層向け SD 研修】

- ・2024 年度には、「大学コンソーシアム大阪 中期計画推進に係る提案型研究事業」の一環として、中堅層職員を対象とした新規研修の研究が実施された。
- ・その成果を踏まえ、今年度より研修部会事業の一つとして下半期に実施予定としている。

取組 2 サロン・ド・大学コンソーシアム大阪（SD 勉強会）

<https://www.consortium-osaka.gr.jp/staff/salon>

目標	・参加者が主体的に情報交換や交流を行っている。
数値目標	・会員大学の参加率：会員大学数の 60%以上の参加大学数／各年
活動指標	・開催回数：3 回以上／各年
実績	・3 回実施予定 (第 1 回：8 月 20 日、第 2 回：10 月 24 日、第 3 回：調整中)

- ・会員大学の教職員が主体的に参加し、時宜に応じたテーマを設定して相互に情報・意見交換を行う勉強会を、年間を通じて実施している。
- ・第 1 回は「障がい学生支援」をテーマに、20 大学 34 人（うち会員外 2 大学 2 人）が参加し、幅広い大学の教職員が参加し、課題や取組を共有しながら体制整備に向けた具体的な議論を行った。
- ・第 2 回は「生成 AI」、第 3 回は「大学における DX 化」をテーマに据え、大学教職員の業務改善や新たな実務展開につながる学びの場として開催を予定している。

<開催スケジュール>

回	テーマ・講師等	参加者数
1	■誰もパンクしない障がい学生支援の体制づくり 講師：宮谷 祐史氏 （大阪大谷大学 人間社会学部 心理・福祉学科 専任講師） 司会：中村 雅司氏 （大学コンソーシアム大阪 研修部会推進副委員長、 大阪大谷大学 副学長、人間社会学部 教授、人間社会学部長）	20 大学 34 人 (うち会員外 2 大学 2 人)
2	■生成 AI を「頼れるパートナー」に！大学職員のための AI 活用・習慣化講座 —基礎の復習から実践ノウハウまで— 講師：森木 銀河氏 （元九州大学 インスティテューショナル・リサーチ室 学術推進専門員） 司会：佐藤 浩輔氏 （大学コンソーシアム大阪 研修部会推進委員会 委員、 大阪体育大学 庶務部 学長室担当 チーフ）	-
3	■大学における DX 化（仮題） 講師：寺尾 健志氏 （寺尾コンサルティング フリーコンサルタント） 司会：松田 優一氏 （関西大学 学事局 学部・大学院事務グループ 理工系事務チーム 主任）	-

課題7 大阪の様々な課題に対応した取り組みの拡充

月	会議	行事
4	第1回分科会1（25日）	第1回公開講座（15日）～以降、順次開催
5	第2回分科会1（23日）	
6	第3回分科会1（20日）	大阪 PF 活動報告会（20日）
7	第4回分科会1（31日）	第1回FD研修（23日）～順次開催
8	第5回分科会1（29日）	
9	第6回分科会1（19日） 第1回分科会2（9日）	MOS 資格取得講座開講（9月24日～11月30日）
10	第7回分科会1（17日）	タイプ3申請（31日までに）

取組1 学生ボランティアの拡充 <https://www.consortium-osaka.gr.jp/student/volunteer>

目標	・事業の企画運営に学生が主体的に関わる機会が創出されている。
数値目標	・学生の参加数：各部会事業への企画・運営に関わった学生数延べ200人／計画期間内
活動指標	・既存事業やその他事業へ学生ボランティア参画：2事業以上／各年
実績	・4事業を実施予定 （地域連携学生フォーラム、学生英語プレゼンテーションコンテスト、国際交流イベント（大阪まちあるきツアー）、ACT 交流イベント（1件）

- ・地域連携や国際交流イベント等の運営に学生が主体的に参画し、大学の枠を超えて協働する仕組みを整えている。
- ・2021年度に発足した「学生ボランティアチーム ACT」は、2023年度から地域連携部会の事業として位置付けられ、推進委員の助言を受けながら自由な発想による学生交流イベントを展開している。
- ・2025年度は、地域連携学生フォーラム、学生英語プレゼンテーションコンテスト、国際交流イベント（大阪まちあるきツアー）、ACT 交流イベントの計4事業を予定しており、学生が多様な場面で企画・運営に関わることを通じて、主体性・協働性を養う機会を提供していく。

取組2 連携調査・研究の実施

目標	・大学間、また産官学の連携による調査や研究が恒常的に実施されている。
数値目標	・連携調査・研究実施数 延べ15件／計画期間内
活動指標	・連携調査・研究テーマ数 2テーマ以上／各年
実績	・調査：2テーマ ①新入生対象 薬物に関する意識調査 ②高校生の進路検討に関するニーズ調査 ・研究：2テーマ ※いずれも実施主体は大阪 PF 分科会1) ①新入生対象 薬物意識調査に基づく共同研究 ②大阪府内地域連携プラットフォームにおける大学情報発信の効果検証

- ・大学間および産官学の連携を基盤とした調査・研究を継続的に推進し、会員大学の新入生を対象とした「薬物に関する意識調査」や、大阪府内の高校生を対象とした「進路検討ニーズ調査」など、実証的なデータ収集を行っている。
- ・これらの調査結果を踏まえ、2025年度より大阪府内地域連携プラットフォーム分科会1が中心となって共同研究に着手し、薬物乱用防止や高大接続における課題解決など、地域と大学が共有すべき具体的なテーマへの発展を目指している。
- ・調査と研究を一体的に位置付けることで、単なるデータ収集にとどまらず、大学・行政・事業者が連携し、成果を共有・活用しながら新たな取組へと発展させる枠組みを形成している。
- ・また、これらの調査・研究を大阪府内地域連携プラットフォームの活動として位置付けることで、会員大学間での成果共有と活用を促進し、地域社会に資する知見の蓄積と展開を図りたい。

取組 3 地域課題に対応した取り組みの推進

目標	・産官学連携による課題解決体制が整備されている。
数値目標	・実施事業数 延べ5事業／計画期間内
活動指標	・実施事業数 1事業以上／各年
実績	・5事業実施 (大阪府内地域連携プラットフォーム主催大学教職員研修、公開講座、MOS資格取得講座、リカレントプログラムポータルサイトによる情報発信、活動報告会)

【大阪府内地域連携プラットフォームの取組】 <https://www.consortium-osaka.gr.jp/platform>

<大学教職員研修「大阪∞GAKU」>

- ・大学教職員を対象に、教育改善や資質・能力の向上に資するテーマを取り上げた研修を体系的に展開している。
- ・2025年度からは「大阪∞GAKU（おおさか むげん がく）」の呼称を設定し、大学教職員が学び合い、つながりを深める研修として位置付けて開催している。
- ・2025年度は「外国人留学生支援」「教学IRと大学マーケティング」「ストレスとメンタルヘルス」など、時代の要請に即したテーマを取り上げ、実践知と理論の両面から学べる場を提供した。
- ・各回には幅広い大学から参加があり、会員大学間の情報交換やネットワーク形成を促進する役割も果たしている。

回	開催日	テーマ・講師
1	7月23日	「多様な学生に向き合う教育」への取り組み—外国人留学生の受け入れの現状と課題を中心に— 講師：荒井 真理亜氏（相愛大学 人文学部 教授）
2	8月28日	教学IRを大学マーケティングに活かす考え方と、大学間情報共有 講師：安田 傑氏（大阪大谷大学 人間社会学部 教授） 講師：中村 雅司氏（大阪大谷大学 副学長・人間社会学部 教授）
3	9月12日	大学教職員のストレスとメンタルヘルス ～バーンアウトに陥らないために、自分と相手を労るコミュニケーション技法～ 講師：武藤 麻美氏（阪南大学 国際学部 教授）

<分科会1企画 共同SD研修>

- ・今年度より、大阪府内地域連携プラットフォーム 分科会1が企画する「共同SD研修」を新たに開始した。
- ・主に、「私立大学等改革総合支援事業（タイプ3・プラットフォーム型）」において加点に繋げる工夫や課題を共有しながらのワークショップ形式にて、自大学での取組に繋げることを目的としている。
- ・なお、この研修を通じて、申請大学間の新たな取組に繋げることも、またネットワーク構築に寄与することも目的としている。

回	開催日	テーマ・講師
1	7月31日	私立大学等改革総合支援事業（タイプ3・PF型）を深掘りし、実践に繋げる ～大学間連携を加速するプラットフォーム担当教職員のためのワークショップ～ 司会・コーディネーター：大阪経済大学、大阪体育大学（講師兼任） 講師：桃山学院大学、大阪医科薬科大学、関西大学、大阪女学院大学、大阪観光大学
2	8月28日	“次の一手”を描くための中間レビュー—タイプ3の取組の棚卸しと戦略設計— 司会・コーディネーター：大阪女学院大学（講師兼任） 講師：大阪医科薬科大学、関西大学、大阪大谷大学、藍野大学、大阪国際大学、帝塚山学院大学
3	12月19日	調整中

<公開講座「大阪の知の連携×公開講座」>

- ・大阪・関西の地域課題や文化等をテーマとし、会員大学の知を広く市民に開放する公開講座をオンライン展開している。
- ・2025年9月までに計14講座開催し、多様なテーマを取り上げ、専門的知見をわかりやすく社会に還元した。10月以降も順次開催予定である。

回	開催日	テーマ・講師
1	4月19日	最新医療機器による心疾患治療 稲盛 修二氏（藍野大学 医療保健学部 臨床工学科 教授）
2	4月23日	プロサッカークラブによる社会貢献と持続可能性 八杉 裕美子氏（大阪女学院大学 専任講師） ※2025年度 大阪女学院大学・大阪女学院大学短期大学 ウキルミナ公開講座と共催
3	4月26日	龍になれなかった豊臣秀吉 ―爾を封じて日本国王と為す― 河上 繁樹氏（大阪学院大学 国際学部 教授）
4	5月27日	タスクマネジメントの心理学 ―効率的に働くために― （大阪電気通信大学 共通教育機構 人間科学教育研究センター 准教授）
5	6月21日	日本の先物取引（除く外為・エネルギー）の中心地大阪 ―江戸時代も令和の現代も― 安孫子 勇一氏（近畿大学 経済学部 教授）
6	6月28日	政治的情報の流通過程 浅野 良成氏（関西大学 法学部 准教授）
7	7月17日	夜間中学から考えるインクルーシブな地域づくりの課題 江口 怜氏（摂南大学 現代社会学部 講師）
8	7月25日	自分の「考え」「気持ち」とうまく付き合っ、人生を豊かに！ 嶋 大樹氏（追手門学院大学 心理学部 講師）
9	8月2日	1970年の大阪万博が今日に残したもの 五月女 賢司氏（大阪国際大学 国際教養学部 国際観光学科 准教授）
10	8月19日	赤ちゃんポストの過去・現在・未来 阪本 恭子氏（大阪医科薬科大学 薬学部 環境医療学グループ 教授）
11	9月11日	未来を支える「下水道」～SDGsへの挑戦と進化する役割～ （桃山学院大学 工学部※ アドバイザー／教授（就任予定）） ※工学部は2026年4月開設予定・設置認可申請中
12	9月20日	現代の若者が抱える社会問題と心理的支援 長谷川 章子氏（大阪樟蔭女子大学 学芸学部 心理学科 准教授）
13	9月26日	がん細胞やウイルス感染細胞の自滅死の役割とメカニズム 眞鍋 昇氏（大阪国際大学 人間科学部 教授）
14	9月27日	エネルギー摂取不足による健康問題 近藤 衣美氏（大阪体育大学 スポーツ科学部 講師）

<大阪府域のリカレント教育推進>

■社会人向けプログラム（リカレントプログラム）の実施

- ・社会人を対象としたキャリアアップ支援の一環として、MOS資格取得を目指すオンデマンド講座を開講し、就職や転職を目指すためのスキルアップの機会を提供している。

開催期間：2025年9月24日（水）～11月30日（日）までの約2か月間
講座名：MOS資格取得講座（オンデマンドによる3講座：Word/Excel/PowerPoint）
対象：キャリアアップ等のために、マイクロソフトスペシャリスト資格取得を目指す ①～③のいずれかに該当する方。※学生は除く。 ①現在職に就いている方 （給料、賃金、その他の経常的な収入を得る仕事に就いている方） ②給料、賃金、その他の経常的な収入を得る仕事から既に退職した方 ③主婦・主夫の方

■会員大学リカレントプログラム ポータルサイトによる情報発信

<https://www.consortium-osaka.gr.jp/platform/program>

- ・会員大学のリカレントプログラムを集約したポータルサイトを拡充・運営し、社会人学び直しニーズに対応している。大阪商工会議所との連携により、産業界への周知・利用促進も進めている。

＜大阪府内地域連携プラットフォーム 活動報告会＞

- ・大阪府内地域連携プラットフォームの取組を広く発信するとともに、参加者に共有する場として開催した。当日は、プラットフォームの全体像とミッションの紹介のほか、2024 年度の取組として「単位互換制度の新たな展開（広域単位互換への発展）」「万博を見据えた地域・国際交流の推進」について報告が行われ、次年度に向けた共通理解を深める機会とした。

＜分科会 1 の設置と私立大学等改革総合支援事業（タイプ 3・プラットフォーム型）の申請＞

- ・2025 年度も私立大学等改革総合支援事業（タイプ 3・プラットフォーム型）に申請し、大阪府内地域連携プラットフォーム分科会 1 を中心に申請根拠の検討や各取組の整理を実施している。
- ・会員大学や行政・事業者と連携し、調査研究や共同取組を通じた選定・加算に向けた体制整備を進めている。

＜分科会 2 の新設＞

- ・大阪府の政策動向や大学現場の課題認識を踏まえ、府内大学・行政・経済団体等が一体となり、発達障がい・グレー学生の支援のあり方を検討する常設の協議体として、今年度より「分科会 2」を新たに設置した。
- ・障がいの特性理解だけでなく、大学や受入企業への啓発や支援体制の整備を含め、大学・行政・企業等が協働する新たなプラットフォーム型の枠組みの構築を目指していくものである。
- ・今後は、各大学における支援事例の共有、企業側のニーズの把握、具体的な支援モデルの検討を段階的に進める予定である。

取組 4 大阪・関西万博との連携

目標	・万博への積極的な参画を通じて大阪・関西の活性化に寄与している。
数値目標	・実施事業数 延べ 10 事業／計画期間内
活動指標	・実施事業数 2 事業以上／各年
実績	2 事業実施 ・SDGs や万博をテーマとした単位互換科目（センター科目：2 科目）を提供 ・大阪府内地域連携プラットフォーム公開講座にて万博をテーマに開催：2025 年 8 月開催

- ・大阪・関西万博の開幕にあわせ、これまで意識的に取り組んできた万博関連事業を一定の形として展開する年度となった。その具体例として、SDGs や万博をテーマとした単位互換科目（センター科目：2 科目）の開講は、会員大学のニーズに応える取組として推進している。
- ・また、国際交流部会では、万博を契機としたレガシー継承に関する議論も進められており、今後の取組発展を見据えた基盤づくりが検討されている。